

第2部 実施報告

1. 事業所の選定

初年度においては、北海道庁との事前協議にて地方都市を中心とした圏域で実施することとなり、地域の老健ネットワークに協力を仰ぎ、補助要項の定めに従い3圏域より6施設を選出した。

圏域	法人名・施設名	設置形態	入所定員	通所定員
渡島圏域	①社会医療法人高橋病院 介護老人保健施設ゆとりろ(函館市)	単独型	150名	45名
	②社会福祉法人溪仁会 介護老人保健施設コミュニティホーム八雲 (八雲町)	単独型	90名	45名
十勝圏域	③医療法人社団刀圭会 介護老人保健施設アメニティ帯広(帯広市)	併設型	100名	39名
	④社会福祉法人鹿追恵愛会 介護老人保健施設もみじの里(鹿追町)	ユニット型	100名	30名
オホーツク圏域	⑤社会福祉法人きたみ北尽会 介護老人保健施設緑風(北見市)	単独型	80名	40名
	⑥社会医療法人恵和会 介護老人保健施設アメニティ美幌(美幌町)	単独型	100名	40名

2. 業務の効率化・介護福祉士等の働き方の検討

1. モデル施設の介護現場においては、まず自施設の介護業務に附帯する周辺業務について、日常的・定期的に時間を取られている作業的な業務を切り出し、時間や内容別に区分を行った。
2. 周辺業務を施設ごとの判断で、技術や知識、経験の必要度に応じてパターン化・クラス分けをすることで整理した。
3. 業務整理や職場研修での指導を通じて、自施設における介護現場の労働環境改善のきっかけとなるよう、施設間で情報交換・共有を図り、相互の参考材料とした。

＜業務区分(施設により分類は異なる)＞

- ①Aクラスの例／一定程度の専門的な技術・知識や経験が必要で、より介護に近い業務(認知症の方への対応や見守り、利用者とコミュニケーションを要するレクリエーションなどの補助、趣味活動のサポートなど)
- ②Bクラスの例／比較的短時間(数時間程度)の研修や指導により得られる程度の専門性が必要となる業務(身体状況に合わせたベッドメイク、個別の注意を要する配膳・下膳など)
- ③Cクラスの例／マニュアル化・パターン化が容易で、専門的な技術・知識をほぼ必要としない平易な業務(単純作業としてのベッドメイクやリネン交換、清掃・片づけなどの環境整備、物品の補充・準備など)

※入浴後のドライヤー掛けや、比較的歩行自立度の高い利用者への手引き誘導など、利用者への軽微な身体的接触を含む業務も周辺業務とした

3. 地域人材向け説明会(ジョブマッチング)の開催

1. 地域への広報の実施

- ◆モデル施設ごとに広報戦略を企画し、まずは施設へ足を運んでもらうことを目的として、それぞれが地域の実情に合わせた効果的な広報活動を展開した。
- ◆事前の参加申込状況を確認しつつ追加対策を講じるなど、説明会開催の直前まで呼び込みに尽力した。
- ◆反響としては、特に地方紙への記事を見てからの申込みが多かった。

＜主な広報実績＞

①ゆとりろ(函館市)	新聞折り込み：市内中央～西部方面23,000枚
②コミュニティホーム八雲(八雲町)	新聞折り込み：八雲町内全域(熊石方面除く)に4,500枚 町内会・民生委員協議会等：500枚
③アメニティ帯広(帯広市)	新聞折り込み：市内栄～自由が丘方面に14,500枚 周辺地域へのポスティング：300枚
④もみじの里(鹿追町)	新聞折り込み：鹿追町全域他近接町村部に6,800枚 町広報紙折り込み：2,500枚
⑤緑風(北見市)	新聞・地域フリーペーパー折り込み：20,000枚 近隣公共施設・町内会等：5,000枚
⑥アメニティ美幌(美幌町)	新聞・地域フリーペーパー折り込み：8,500枚

<広報チラシ・ポスター>

セカンドライフを応援します！
元気な高齢者や
地域の人材が支える
「介護助手制度」事業に
参加しませんか？

以下の介護老人保健施設で、「介護助手制度事業」を行うことになりました。
あなたも、「介護助手さん」として介護老人保健施設で働きながら、みんなで
支える「安心できる地域社会」づくりに参加しませんか？

施設名
ゆとりろ（函館市）・コミュニティホーム八雲（八雲町）・
アメニティ帯広（帯広市）・もみじの里（鹿追町）・緑風（北見市）・
アメニティ美幌（美幌町）

介護助手
事前説明会
詳しくは裏面に

「事前説明会」の
お申し込みは
こちらまで → ☎0138-23-7223（担当 境）

この事業は「地域医療介護総合確保基金」を活用する補助事業
として、北海道より補助金の交付決定を受けています。

介護助手さんとは？

「介護助手」とは、介護老人保健施設内でのお部屋の掃除や食事の片付け、
ベッドメイク（シーツ交換等）、園芸など趣味活動のお手伝い、お話し相手
など、介護の補助的な周辺作業を担っていただくお仕事です。研修期間中
の時給は実施施設の給与規程に応じてお支払い
致します。

事業に参加することにより、自立支援にむけ
た介護を学びながら、ご自身の健康維持、介護
予防にもつながります。

下記の介護老人保健施設で **事前説明会** を行います！

事前説明会の内容

- ◆介護助手さんって、どんなお仕事？
- ◆高齢期の身体的変化とケア
- ◆認知症の方の気持ちとケア
- ◆施設見学

介護老人保健施設の現場職員が講師となって、皆様の色々な疑問や不安にお応えします！

事前説明会の会場

「介護老人保健施設 ゆとりろ」会場

開催日 平成29年 9月3日(日) 10:00～
9月5日(火) 14:00～
※ご希望の多い日をお選びください。 (1時間程度)

会場 介護老人保健施設 ゆとりろ
〒040-0043 函館市宝来町14番27号
☎0138-23-7223 (担当 境)

★事業に関するお問い合わせはこちらまで★
一般社団法人北海道老人保健施設協議会 事務局 ☎011-781-8800

<新聞記事・地域フリーペーパー(一例)>

介護助手養成へモデル事業展開

北見の緑風とアメニティ美幌

「介護助手制度事業」のモデル事業として、北見市の緑風（北見市）とアメニティ美幌（美幌町）の2施設が、介護助手の養成と就業を支援するモデル事業を展開する。この事業は、地域医療介護総合確保基金を活用する補助事業として、北海道より補助金の交付決定を受けている。

介護助手の養成と就業を支援するモデル事業として、北見市の緑風（北見市）とアメニティ美幌（美幌町）の2施設が、介護助手の養成と就業を支援するモデル事業を展開する。この事業は、地域医療介護総合確保基金を活用する補助事業として、北海道より補助金の交付決定を受けている。

介護助手の養成と就業を支援するモデル事業として、北見市の緑風（北見市）とアメニティ美幌（美幌町）の2施設が、介護助手の養成と就業を支援するモデル事業を展開する。この事業は、地域医療介護総合確保基金を活用する補助事業として、北海道より補助金の交付決定を受けている。

介護助手の養成と就業を支援するモデル事業として、北見市の緑風（北見市）とアメニティ美幌（美幌町）の2施設が、介護助手の養成と就業を支援するモデル事業を展開する。この事業は、地域医療介護総合確保基金を活用する補助事業として、北海道より補助金の交付決定を受けている。

高齢者を介護職に

十勝の施設で、助手養成

十勝管内の介護老人保健施設で、介護助手の養成と就業を支援するモデル事業が展開されている。この事業は、地域医療介護総合確保基金を活用する補助事業として、北海道より補助金の交付決定を受けている。

介護助手の養成と就業を支援するモデル事業として、十勝管内の介護老人保健施設で、介護助手の養成と就業を支援するモデル事業を展開する。この事業は、地域医療介護総合確保基金を活用する補助事業として、北海道より補助金の交付決定を受けている。

高齢者を介護助手に養成

管内2施設、道の補助使い

月末に事前説明会

管内の介護老人保健施設で、介護助手の養成と就業を支援するモデル事業が展開されている。この事業は、地域医療介護総合確保基金を活用する補助事業として、北海道より補助金の交付決定を受けている。

管内の介護老人保健施設で、介護助手の養成と就業を支援するモデル事業が展開されている。この事業は、地域医療介護総合確保基金を活用する補助事業として、北海道より補助金の交付決定を受けている。

管内の介護老人保健施設で、介護助手の養成と就業を支援するモデル事業が展開されている。この事業は、地域医療介護総合確保基金を活用する補助事業として、北海道より補助金の交付決定を受けている。

管内の介護老人保健施設で、介護助手の養成と就業を支援するモデル事業が展開されている。この事業は、地域医療介護総合確保基金を活用する補助事業として、北海道より補助金の交付決定を受けている。

2. 地域への事前説明会の実施


平成29年8月20日～9月26日の間、各施設それぞれ2回の事前説明会を開催し、6施設で計225名もの参加があった。事業目標の1施設20名×6施設＝計120名に対し、目標を大幅に上回る参加実績となった

施設名	事前説明会(1回目)	参加者	事前説明会(2回目)	参加者	計
①ゆとりろ (函館市)	平成29年9月3日(日)	31名	平成29年9月5日(火)	25名	56名
②コミュニティ ホーム八雲 (八雲町)	平成29年9月11日(月)	16名	平成29年9月13日(水)	4名	20名
③アメニティ 帯広(帯広市)	平成29年8月20日(日)	33名	平成29年8月22日(火)	9名	42名
④もみじの里 (鹿追町)	平成29年9月20日(水)	6名	平成29年9月26日(火)	6名	12名
⑤緑風(北見市)	平成29年8月26日(土)	23名	平成29年8月30日(水)	28名	51名
⑥アメニティ 美幌(美幌町)	平成29年8月31日(木)	24名	平成29年9月2日(土)	20名	44名

<説明会資料(部分抜粋)>

* H29年度「北海道地域医療総合確保基金事業」
元氣高齢者「介護助手」人材づくり事業
「地域事前説明会」
～老健施設における高齢者介護において～

介護老人保健施設とは




介護老人保健施設 アメニティ帯広 リハビリテーション課

*介護老人保健施設とはどんな所？

*介護老人保健施設 通称：老健 ろうけん

*1. 老健は在宅復帰を目指す施設
入所期間は終身制ではなく、3～6ヶ月、長くても1年となるため、病院と自宅の中間的施設として設けられている公共型介護施設
※特別養護老人ホームなどは終身制



*介護老人保健施設とはどんな所？

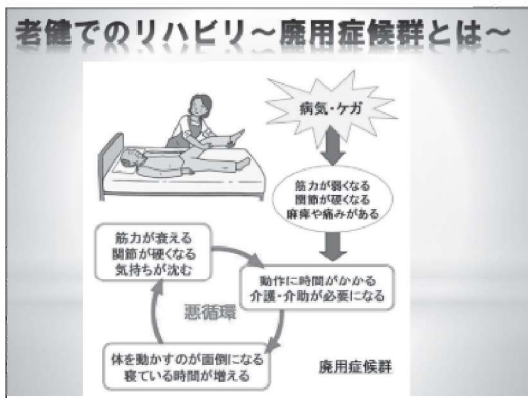
*2. 高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すため
医師による医学的管理のもと、看護・介護ケア、リハビリスタッフによる専門的リハビリテーション、栄養管理・食事・入浴などのサービスを提供

*3. 利用者ひとりひとりの状態や目標に合わせたケアサービスを、医師をはじめとする専門スタッフが
行い、夜間でも安心できる体制が整っている

*介護老人保健施設とはどんな所？

*4. 地域に開かれた施設、地域に根ざした施設


家族や地域住民と交流し情報提供を行い、さまざまなケアの相談に対応。
市町村自治体や各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となったケアを積極的に担う。
評価・情報公開を積極的に行い、サービスの向上に努める。



*老健でのリハビリとは？

- * 「できること」を「していること」に
- * 24時間の生活すべてが生活リハビリ
- * 残された機能を最大限に引き出す
- * 訪問指導
- * アクティビティー、集団体操、レクリエーションなどの活動

～リハビリ、看護・介護スタッフ協働し
ご利用者、ご家族と一緒に
『チーム』で在宅支援～



*リハビリでの目標

- * 体位交換（寝がえりのお手伝い）による褥瘡（床ずれ）予防
- * 寝がえり、座位、起き上がりの練習
- * 起きている時間を増やす
- * 歩く機会を設ける

➡生活全般の活性化 楽しみのある生活
～在宅復帰を目指す～

3. 参加者と施設の就労マッチング

- 事前説明会参加者225名のうち、事前説明会終了直後の意向調査では160名(7割程度)から就労マッチングの申込みがあったが、改めて面談日程調整時の意向確認を行い、最終的に全体で121名の希望者に就労マッチングを実施した。
- 就労マッチングの結果、当初の見込み(目標)30名を大幅に超える49名の方が職場研修を開始することとなった。

施設名	就労マッチング申込数		職場研修参加
①ゆとりろ(函館市)	31名	➡	9名
②コミュニティホーム八雲(八雲町)	15名	➡	10名
③アメニティ帯広(帯広市)	23名	➡	14名
④もみじの里(鹿追町)	6名	➡	6名
⑤緑風(北見市)	30名	➡	5名
⑥アメニティ美幌(美幌町)	16名	➡	5名
	合計 121名		合計49名

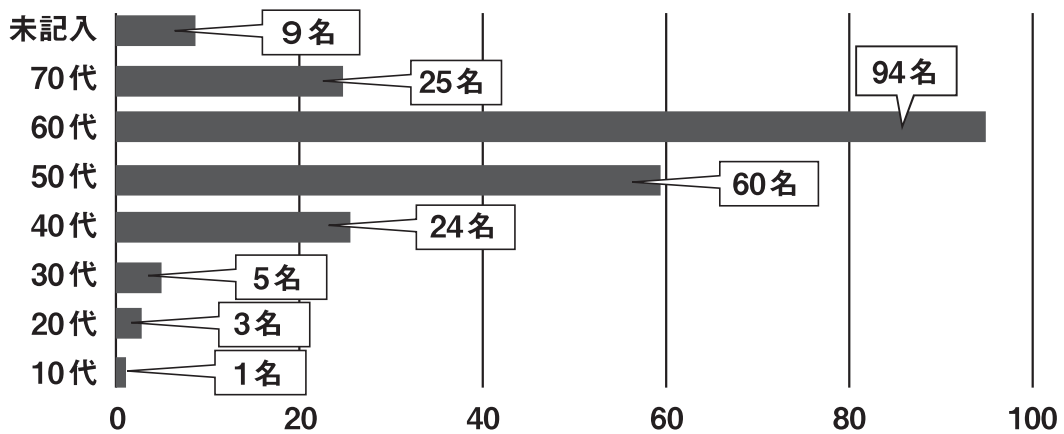
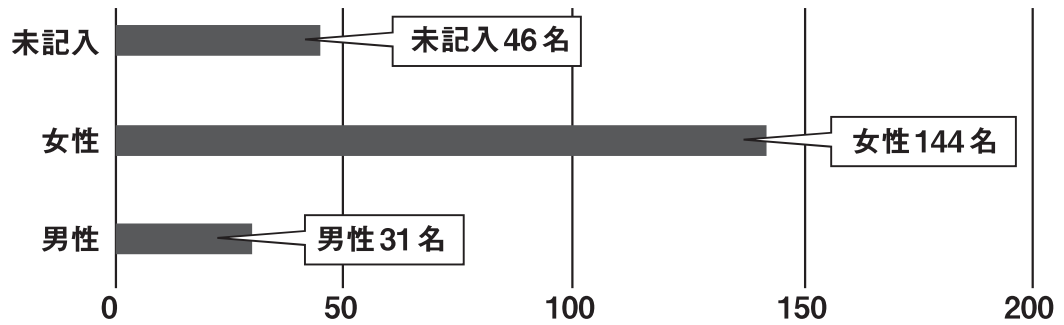
※事業目標は1施設につき5名を職場研修対象としたが、モデル施設の判断で5名を越えて受け入れる場合は任意とした。

4. 説明会参加者アンケート

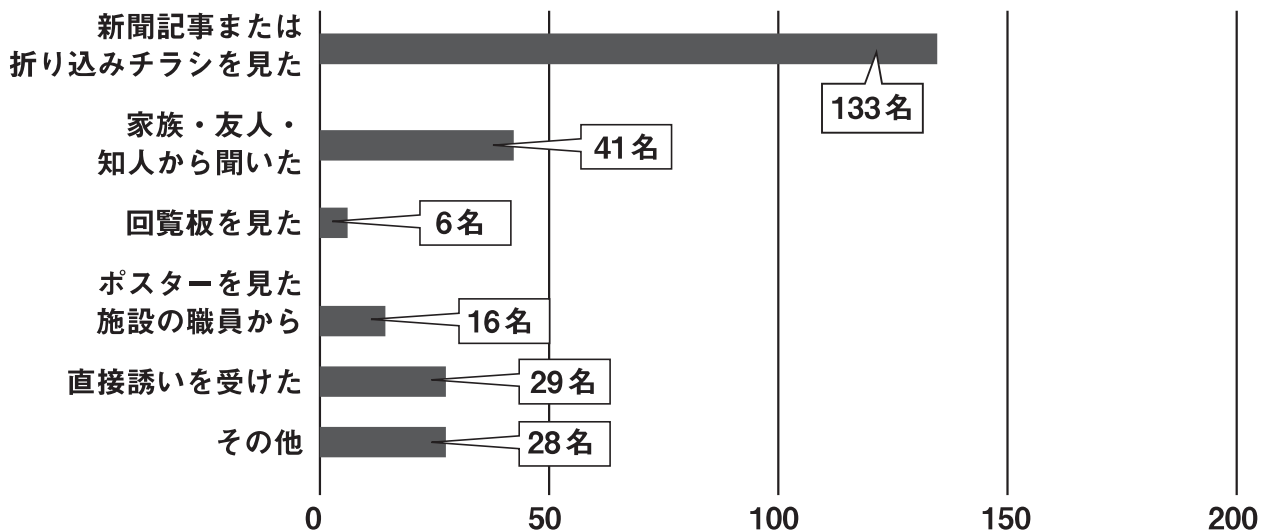
事前説明会の参加者にアンケート調査を実施し、年齢構成や参加動機など、広報活動の達成度合いを推し測るべく結果の集約を行った。(有効回答221名)

(1) 設問内容と集計結果

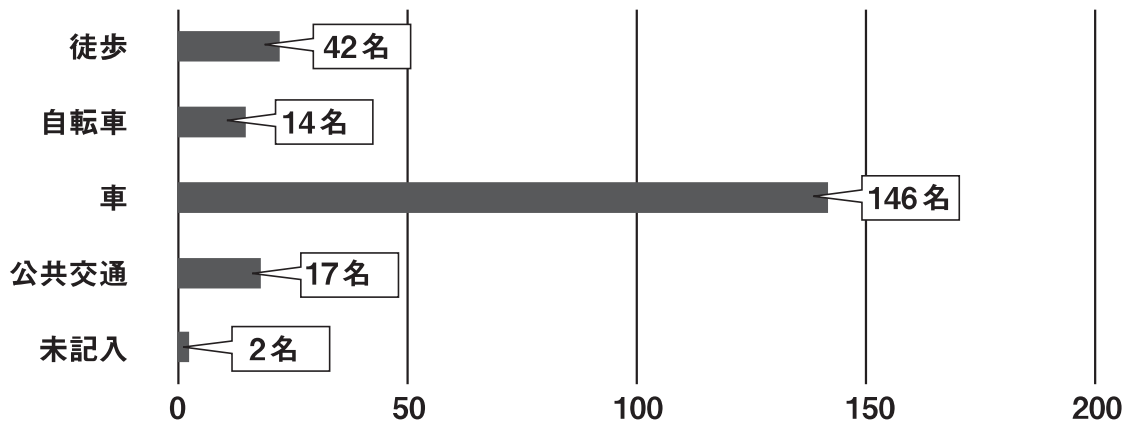
Q1：参加者の性別と年齢構成



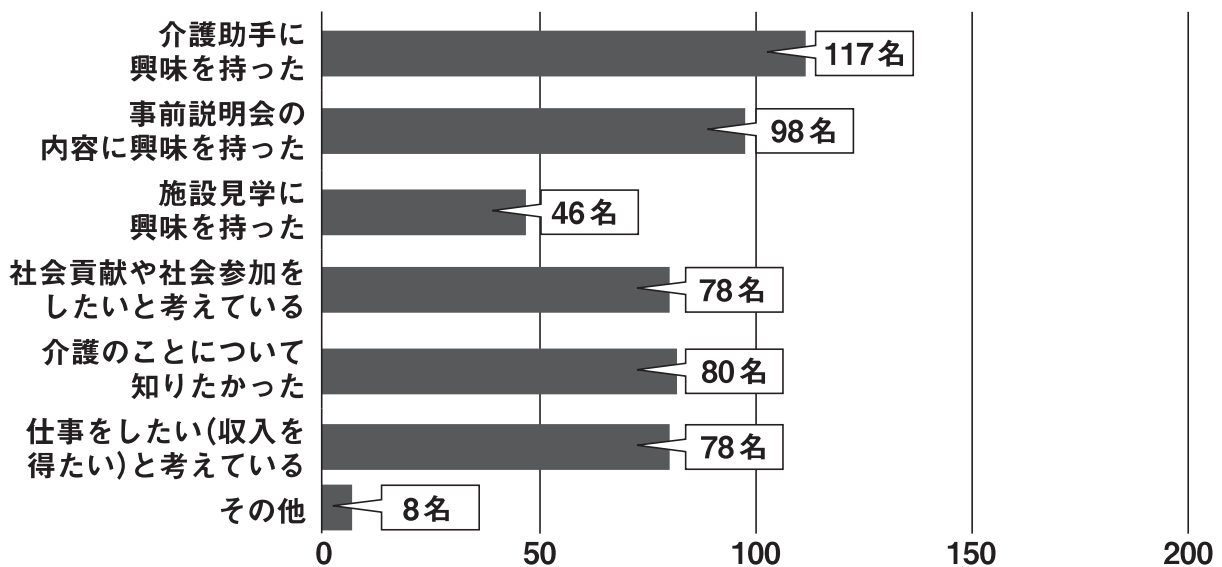
Q2：事前説明会の認識(複数回答)



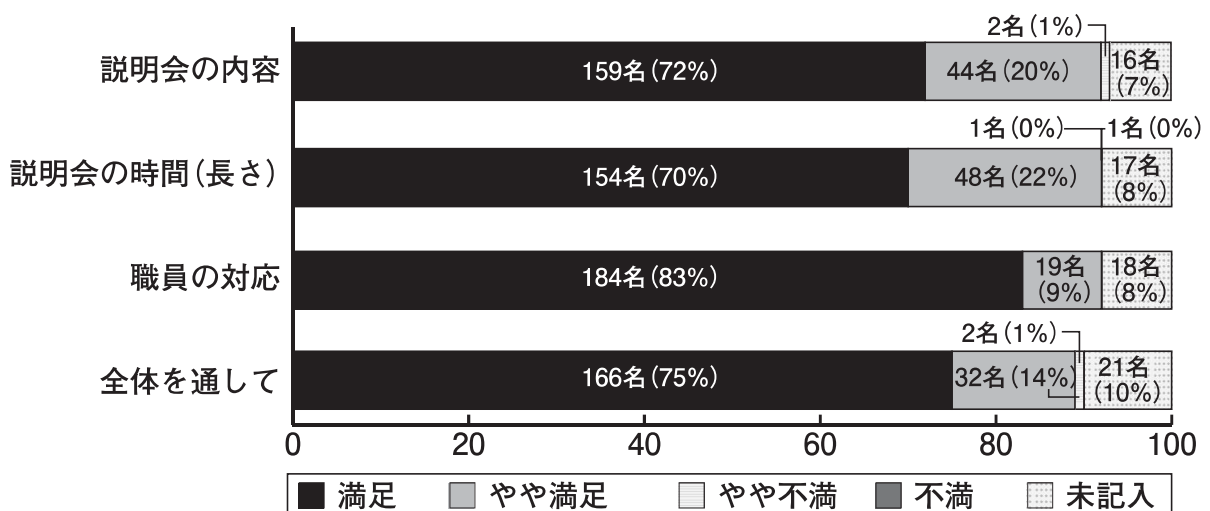
Q3：施設までの交通手段



Q4：事前説明会の参加動機(複数回答)



Q5：説明会についての満足度



Q6：自由記載意見(一部紹介)

- ・深い真心を持ち、一つとなって取り組まれていることを知り、感激し勉強となった。
- ・緊張しやすいが、リラックスタイムや深呼吸などを取り入れ、職員の皆さんも同じ気持ちということを知り、心がほぐれた。
- ・サポートできる内容や時間が合えばと思う反面、実際どのようなことをどの程度できるのかという不安もありますが、まずはこのような場に参加できて良かった。
- ・ペーパーヘルパーです。当施設においてボランティアにて時々お手伝いに来ていますので、少しは理解していました。
- ・初めて施設に入ったがりハビリの場所等広くて、見やすく動きやすそうに思えた。
- ・とても良かった。このような機会をもっと回数を増やしてほしい。
- ・若い人が多く働いていて、将来に希望が持てた。小生は、現在家族の介護中なので就労できません。
- ・皆さんが、この仕事に対して深い愛をもち、又、誇りをもって仕事をされている様子が伝わり、とてもよい印象を持ちました。
- ・介護支援専門員の資格がありました(函館に帰るのをきっかけに返納)。介護福祉士資格があり、社会参加をし、役に立てればと。
- ・シーツ交換の実技がすごく参考になった。家庭でも大切なことと思い取り入れたいと思った。
- ・私も介護施設を知っておりますが、居住的にはかなり広い方と思いました。説明の中で「なるべく自分で出来る事は自分でしてもらおう」という事が印象に残りました。後はとても明るい感じでのびのびとしているように感じました。
- ・介護について…「介護を受ける人の気持ちで介護する」すごく勉強になりました。
- ・ボランティアとして介護助手業務に携われたら良いと思います。シーツ交換、お茶の用意、食器の配膳、下膳のみなど…。

(2)結果考察

- 参加者年齢は60代が42.5%と最も多く、70代の11.3%と併せて53.8%と全体の半数以上を占め、概ね本事業の主なターゲットとする元気高齢者層を中心とした参加となった。
- 地方紙掲載後の参加申込みが多く、事業内容の具体的なイメージがわかる広報手段が特に有効であった。
- 近隣住民に限らず、新聞チラシ折り込み範囲から広く参加があった。
- 参加動機について、介護助手への興味その他、社会貢献(社会参加)と就労(収入)目的の回答も多く、動機付けの関連と重要度がうかがえる。
- 説明会の内容には概ね満足されており、自由記載意見から、介護現場の窮状のみならず、職員の真摯な姿勢が共感を呼び、就労マッチングへの申込みにつながったと推察できる。